

今回は 夏休みに行われた関ジモト大学 の報告（その9）です。

◇ オンラインセミナー「関ジモト大学2022 online」

今年度は、昨年度に引き続きオンラインセミナーを実施しました。関市で活躍する「せき・まちづくりNPOぶうめらん」が主催する「関ジモト大学 online」の場をお借りして、関市内の19企業と各企業のSDGsに関わる取り組みについての話を聞き、生徒が意見交換を行いました。

◇ 企業紹介

【大建 met】

建物を中心として、家具などのプロダクトや事業デザイン、まちづくり活動まで。ローカルなフィールドでのデザイン活動は自分たちの暮らしを良くすることに直結しています。



【HP】 <http://netmet.jp/>

関連する SDGsの 目標				
---------------------	---	---	---	--

◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

はじめての関ジモト大学ということで、少し緊張感のある講義となった。話の内容としては易しく、理解しやすい内容だった。関テラスなど、身近な建物に関するエピソードなどを聞いて理解に繋げることができてよかったし、スクリーンにはさまざまな写真や図が表示されていてとても理解につながった。また、様々な資材などの調達がSDGsに関わっていると聞いて驚いた。

建設業者はSDGsに思ったより関わりがあることを知れて良かったなと思いました。やっぱり責任感というのはとても重要だと思うし、建築というのは生活の基本となるもののひとつだとも思うので、かなりのプレッシャーだったり責任だったりがあると思います。そんな中、建設の仕事をなさっているのはカッコ良いと思いました。有意義な時間を過ごせたかなと思います。

大建 met さんには、主に関市の企業についてのお話を聞かせていただきました。自分は関市に住んでいるけれど、名前だけ聞いたことがあるという感覚でした。しかし、今日のお話で、そこに携わる方々の想いや背景を知ることができたので、かなり興味が湧き、心が動きました。また、本町 BASE の壁画の話では、壁画とともにそれに関わった人も成長していくという想いが込められていることを聞いて、今後そこに行ってみた時の楽しみが1つ増えたので良い経験になりました。そして、関市の企業なので、僕たち関市民もいずれかは携わり、この関市というまちに持続的な賑わいを作り出していけるようにしていきたいです。

ただ建物をデザインし建てるだけではなく、どんな人にどんな風にどんな目的で使ってもらえるのかというのを考えたり、賑わいやおもしろさを意識したデザインをしたりする「まえのデザイン」や、建物の再利用、成長し続けるための企画を考える「あとのデザイン」を大切にしていることがわかりました。また、様々な人と関わり、お互いを認め合うことで、それぞれが自分を表現し、繋がり、町を発展させていく、この過程が素晴らしいと思いました。

中古コンテナをそのまま住宅やオフィスの建設にもってくるとするのは、とても斬新でユニークな考えだと思いました。総社員が正社員の5人のみであるこの会社の社長の方は、社員のはたらきやすさを重視されていました。少ない中でもそれぞれの家庭があり、半日出勤など、社員の要望に応じたはたらき方を採用ができたのは、建築というやりたい仕事をしているという自覚があるから、忙しい中でも続けられたそうです。

まずはとてもユニークなオフィスが印象的です。コンテナを組み合わせた建物にはほかにはないものを感じさせられました。その建物にも社長さんの思いが詰まっていた良いなと感じました。他にも雇用の仕方が女性を多く取り入れているということで、SDGs を積極的に取り入れている素晴らしいなと思いました。

建築について、今まであまり詳しく知らなかったけれど、話を伺って、建築とはどういうものなのか、どのような思いがあるのか、ということがよくわかりました。また、ただ建物の設計をするだけでなく、その土地がどういう性質なのかを調べたり、その地域の特徴に合った建物を作ったりと、さまざまな工夫をされていることもわかりました。それを知ってから、自分の住んでいる地域の建物を見返してみると、確かにちゃんと風景に馴染んだ建物が多かったり、住んでいる人の年齢層にも合わせたお店が多くて、すごく感心しました。

今回大建 met さんのお話を聞いて特に印象に残ったことは、リース事業です。リース事業とは、ものを再利用して壊したものがゴミにならないようにする取り組みです。例えば大建 met さんは、オフィスを、コンテナを利用して地震などの対策もできる建物にしたりして資源を活用しています。また、人と建物のつながりを大切にしている、建設した建物の壁に壁画を描き少しずつ増やしていくことで成長している感じを表現したり、本町ベースでの活動など街をにぎやかにできるように活動していました。

大建 met さんの講座を聞いて、建築の方面についてより興味を持つことが出来た。元々自分は建築に少し興味があり、この講座を取ろうと考えた。そして自分の将来についても具体的にイメージを持てたので良かった。

学んだこととして、建築、建設業に関わる全てに言えることとして、建物を建てるということは、責任がとても大きいということである。だからこそ、しっかりとした力を身につけるのに時間もかかるし努力も必要である。しかし自分の思い描くものを作れることは最大の魅力であるとわかった。

コンテナを利用した建築についての活動をされていて、建築というジャンルからどのように持続可能な街づくりにつながっているのかがよくわかった。地方に多い空き地を有効活用するために移動しやすく使いやすいコンテナを活用した建築を行うことで使われていない土地を有効活用していることを知って、空き地の利用による SDGs の参加についてもっと知りたいと思った。

ここでは、建築をする前と後も行っていると分かった。前では、そもそもその建築が必要なのかを考えていて、後ではどうやったらしっかり安全に使えるかを教えてたりしていることを知った。ただお客様の要望に答えるだけでなく、その、前と後も意識していてすごいと思ったし、それは仕事としておらず、お金をもらっていないなんて、良いことだなと思いました。あとのデザインで、壁に絵を描けるようにして、一年先一年先と成長していけるようにしたイベントを開催するのは良い考えだなと思いました。

大建 met さんの事務所はコンテナで作られていた。コンテナを使うことで、動かせるオフィスとなる。これは再開発をするときなどにとても便利である感じ、SDGs の住み続けられる街づくりと関係が強いと思った。

関市の本町ベースでは、本町ベースの企画段階で、出来上がった数十年後までも描いていた。また、様々なフリースペースが設けられており、建物には地域の人々とのつながりの役割があるということも強く感じた。建物を建てる意味が今までの考えとは全然変わって、とても楽しそうだと感じるようになった！

一つ一つの建築に町を豊かにするための思いが込められていて、働くことへのやりがいを感じました。「動く建築」というのはとても個性的で発想がすごいなと思いました。地域の人の思いを取り入れながら、未来の生活によりよくつながるように考えられていることが素晴らしいと思います。関テラスや本町ベースにも力を入れていることを改めて知れたので、少しでも建築した思いを感じられるように行ってみたいなと思います。

コンテナを使った事務所や、バラバラにして別の所に建てることのできる本町ベースなど、建てるだけで終わらずに、その建物の未来まで設計するというのが新しいと思った。どちらも移動ができる建物ということで余った土地を有効活用できて住みやすい街につながると思った。まだ高校生だからと今まで自分が住む町に積極的に関わることはなかったけれど、町をより良くするためアイデアを出すことは今からでもできると分かった。